

首都直下型地震を想定すると震度6強

東日本大震災規模の地震が海老名を襲ったらどうなるでしょう。30年以内に70%の確率で発生すると国が予測している「首都直下型地震」が起きた場合、市では最大震度6強の揺れが予測されています。

経験したことのない揺れ被害状況は？

震度6強は市が今までに経験したことがない揺れです。震度6弱では「立っていることが困難」な状況が、震度6強になると「はわないと動けない。人が飛ばされることもある」というように変化していきます。ほかに、「固定していない

家具の移動または転倒」「壁やタイルなどが破損・落下」「耐震性の低い木造建築などで瓦の落下、傾き・倒壊」などの被害は、震度が強まるほど多くなります。

大地震を想定した海老名市の被害予測	予測値	復旧見込み
震度	6弱～6強	—
死傷者数	950人	—
避難者数	10,270人	—
停電件数	77,240件	7日
ガス供給支障数	300戸	42日
上下水道断水・機能支障人数	21,310人	62日
電話不通回線数	44,820回線	7日
帰宅困難者	9,020人	—

「神奈川県地震被害想定調査報告書」参考。
ガスの算定戸数はLPガスのみ。ガスの復旧見込みは東京ガス(株)の算出で都市ガスのみ。

地震発生に備えた行動を確認しましょう

被害を最小限に抑えるには慌てず適切な行動をとることが重要です。地震発生に備え、口頭から自らの行動をイメージしておきましょう。

地震発生!

自身の安全確保

- 倒れそうな家具から離れる
- 姿勢を低くする
- 頭を守る
- 安全な場所から動かない



1～5分後 室内の安全確認

- 火の元を確認。出火時は消火
- 近くのドアや窓を開け、避難口を確保
- 住人全員の安全を確認



5～10分後

近隣などの安全確認と避難の判断

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣同士で助け合う
- 住人全員が無事な場合は安否確認フラッグ(黄色いタオルでの代用可)を屋外のドアノブなどに掲げる



自宅でも生活することが困難な場合は、ガスの元栓を閉めて電気のブレーカーを落とし、生活必需品などを持って避難する。



行動と備えのポイント

- デマ情報に惑わされず、テレビやラジオ、消防署・行政などから正しい情報を収集しましょう。
- 避難先は市が開設する避難所だけではありません。自宅が安全な場合は「在宅避難」を、親戚や知人宅への避難も検討しておきましょう。
- 下水道が破損し、トイレが使用できない可能性があります。大きな地震の後には下水道の点検が終わるまでトイレ袋を使用しましょう。
- 備蓄は1週間分の飲食料や生活必需品、感染予防品を準備することが望ましく、普段から「備える」「使う」「買い足す」の流通備蓄を心掛けましょう。

詳細は防災ガイドブックに掲載しています



防災ガイドブックページ



災害時、大切な人と連絡がとれますか？

災害時は大切な人があなたと同じ場所にいるとは限りません。事前に連絡

先の確認や、連絡を取るための手段を話し合っておきましょう。

確認しよう

- 連絡先
- 集合場所・避難場所
- 行き先のメモを残す場所・方法
- 災害時の連絡手段(災害用伝言ダイヤル☎1771など)



市内41カ所 土砂災害特別警戒区域に指定

「土砂災害特別警戒区域」は、土砂災害警戒区域の中でも、急傾斜地の崩壊などで建築物が損壊し、住民の命や身体に著しい危害が生じる可能性がある区域です。

この区域に土砂災害警戒情報が発表された場合、自宅にいることは危険です。速やかに安全な場所に避難してください。該当区域などの詳細は、県ホームページでご確認ください。

